

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概 要)

先般開催した、令和6年度第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和6年9月 12 日(木) 13 時 30 分～15 時 30 分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

3. 主な意見等

- 8月の原木入荷については時期的に減少しているものの不足感はない。製材の荷動きは全体的に悪く、梱包パレット材の動きが少ないが、カラマツラミナについては一部地域で増加傾向である。今年度の道有林における立木販売入札の進捗率は 41.7%で、応札なしの不落もみられる。11 月まで残りの入札を実施していく。
- 下刈事業が順調に終了し、現在間伐を中心に、主伐を並行して実施中。カラマツは道内道外向けとも受入れ制限が続いている。トドマツについて、一部の地区では出材時期ではない夏場に納入の話があるなど、工場ではらつきがある。今後本格的な伐採時期に入るが、生産調整や皆伐を控えざるを得ないことも念頭に納材先と打ち合わせしているところ。
- トドマツチップの原木価格は地域差があり、不足している地域では価格が高止まりで、原木代も出ない状況である。製紙の状況も厳しく、チップの値上げは期待できる状況にない。非住宅の大型物件により、カラマツ集成材の納期は 1 ヶ月以上かかっている。需要が低迷しているトドマツ一般材のみを生産調整することはできないため、全体を見れば国有林材の委託販売の供給調整はまだ必要ない。
- 国有林の請負事業が十分あり、下刈り等も重なり、事業体はフル稼働の状態である。現状、素材生産の仕事は十分にあるが、需要の低迷が長引くことにより、今後の素材生産の仕事確保を心配している。現在国有林では、中間土場に材を搬出しており、中間土場まで運搬する運転手の確保が難しい。資材やコストが高騰する中、木材の価格が上がらないと山元で削られてしまうことを懸念している。素材生産事業として規模を拡大していくうえで、コスト高騰、人件費、雇用確保の問題に各事業体で頭を悩ませている。
- プレカットについて、住宅の市況が極めて悪く、非住宅の注文増加で何とか前年並みである。冬期は非住宅が減少するため、今後の見通しはかなり厳しい。輸入材は日本マーケットが悪いことから、買い控える動きだが、円高により輸入価格が約 1 万円下がっていることから、国産材もなんとかマーケットに合わせる形で進めていきたい。本州向けの大型非住宅案件が増えており、大断面

用のラミナがとれる大径木の丸太が一定量必要である。

- 国内の流通古紙が不足しており、製紙工場では輸入古紙を使わざるを得ない状況である。輸入チップの価格が下がってきているが、北海道の工場は従来通り道産材をフルに利用して生産する方針で進めるよう要請している。2024 年輸送問題から、遠距離の原料調達を諦めざるを得ない状況である。需要低迷が続くことで、製材工場の体力がなくなり、倒産等により徐々にチップの量も減ってくるのではないかと懸念している。以上のことから、木材需要の停滞により需給調整が始まるのは怖い。
- 輸入材から国産材へのシフトが進んでおり、建築材の荷動きは悪いが、大手と取り組んでいるものは変わらず注文がある。在庫過多や円高傾向により下げ圧力は今後当然出てくると思われるが、国産材への流れを止めないよう何とか対応していきたい。建築には KD 材など、需要に合わせた供給が今後も必要になってくる。国有林材については、山側の供給体制が弱まる心配もあり、委託販売の供給調整は必要ない。
- カラマツの製品需要は全く回復していない。例年秋以降、秋需や年末需要があるが、今年は見込みが薄い。輸出向けの木材需要も低迷したまま推移しており、為替の円高傾向が今後どう影響するのか注視していきたい。一部地域では不足感があるなど、広く分析して、需要があるところに材が供給できるような造材が必要となってくる。